

昭和三十一年三月招集

第一回市議會定例會會議錄

一 昭和三十一年三月十二日午前十時 館山市議會第百四十四次常任委員會繼續會
子系銀行北条支店會議室に招集す

一 出席議員 三十三名 欠名なし 如し

一番 石井 潔 二番 可世不 芳藏

三番 福岡 保徳 五番 秋山 万次

六番 小谷 芳雄 七番 磯田 周雄

八番 飯島 中子 九番 山口 房治

一番 大野 清五郎 二番 佐久間 房次郎

三番 山本 昇 五番 鈴木 孝

一番 飯田 義男 二番 遠山 田子

三番 脇田 順一 四番 小沢 太助

五番 石井 幸次 六番 中村 良五

七番 松本 義太郎 八番 安西 政治

九番 高橋 文治 一〇番 藤田 七郎



山口目録

二五番 田中忠藏

二六番 田中藤郎

二七番 伊勢仙之助

二八番 山口 康

三〇番 小沢東太郎

三一番 田村良重衛

三二番 望月 曜作

三三番 吉田勇次郎

三四番 鳴貫杜作

三五番 小波 光義

三六番 嶋田 紫

一 父席議員三名その氏名左の如し

四番 金木久一

一七番 鈴木市蔵

一 本日の議事日程左の如し

日程才一 認定才一

昭和二十九年秋期市一般会計才入才表

現算

認定才二

昭和二十九年春特別会計才民健康

保険才入才出決算

認定才三

昭和二十九年秋特別会計才民健康

保陳書房跡事務所才入才出決算

認定才四号

昭和二十九年春特別会計公費度元才

入才出決算

認定才五号

昭和二十九年春特別会計経費度才

入才出決算

日程才二

議案才一五号

一時借入金減価変更につて

日程才三

議案才一六号

一時借入金につて

議案才一七号

一時借入金につて

日程才四

議案才一八号

経費につて

日程才五

議案才一九号

館山市教育委員会条例中改正につて

日程才六

議案才二〇号

館山市役所設置条例中改正につて

議案才二一号

館山市公営式条例中改正につて

日程才七

議案才二二号

千手堂町市立幼稚園組合規約の一部を

改正するにつて

日程才一

議案才三三號

熊本市税条例制定について

日程才九

議案才三五號

熊本市立熊山高等学校授業料入子

議案才三六號

芽室科入子料生収条例中改正について
幼稚園保育料生収条例中改正について

一本目の金銭カ子付在り如く

認定才一號

昭和二十九年及熊本市一般会計才大才出

決算

認定才二號

昭和二十九年及特別会計市民健康保険

才大才出決算

認定才三號

昭和二十九年及特別会計国民健康保険

費算給付所才大才出決算

認定才四號

昭和二十九年及特別会計公費庫才大才入

才大才出決算

認定五號

昭和二十九年及特別会計運輸費才大才入

支出決算

議案才一五号

一時借入金議決変更につて

議案才一六号

一時借入金につて

議案才一七号

一時借入金につて

議案才一八号

起債につて

議案才一九号

館山市私立豊稔舎条例中改正につて

議案才二〇号

館山市役所設置条例中改正につて

議案才二一号

館山市公営式条例中改正につて

議案才二二号

千束県八市競輪組合規約の一部を改正

するにつて

議案才二三号

館山市立館山市高等学校授業料入学者

査料入学者料定収条例中改正につて

議案才二四号

幼稚園保育料定収条例中改正につて

開会 午前十時三十分

一 議 事 石井 潔 氏 本日の出席議員数三十三名、只今より第一四定例会第二日目の会議と開会いたします。

本日の会議は、お手元に配布の日程表により順次上程いたします。
それでは日程第一認定才一号乃至才五号を一括上程いたします。

書 記 朗 読

認定才一号 昭和二十九年、佐賀県小市特別会計、市民健康

改善

認定才二号 昭和二十九年、佐賀県小市特別会計、市民健康

康保険才、才出決算

認定才三号 昭和二十九年、佐賀県小市特別会計、市民健康

保険、豊房、新藤、所、才、才出決算

認定才四号 昭和二十九年、佐賀県小市特別会計、公益施設、才

入才出決算

認定才五号 昭和二十九年、佐賀県小市特別会計、観音堂、才入

支出決算

市長(田村利男君)昭和十九年度の決算を本日一般会計及び特別会計を一括して提案いたします。

一般会計につきましては、支出総額二億二千三百十四万三千九百八十一円、その欠損額百二十一万一千七百三十四円、収入未済額四千四百八十六万六千二百九十四円となりまして、支出の総額は二億三千四百十三万五千二百二十五円でございます。そして、支出の差引不足額は二千九十九万一千四百四十四円となります。

この不足金と昭和二十年から繰上充用いたしまして、一応結末をつけた次第でございます。

特別会計に属するものは、豊房診療所及び益徳を建輔につきましては、いずれも黒字を生じ健全な運営を営んでゐることは市同慶の至りに存じます。何と云ふべく市審議会上承認下さるやうお願ひする次第でございます。

市長(田村利男君)昭和十九年度の一般会計並に特別会計の支出

決算にしまして、査査委員といった。地方自治法の定める
ところによりまして、国庫監冊並にに鑑憑書類を慎重に審査をいたしま
す。結果意見書を提出した。――たうらに、国庫監冊其経費は正
確である。ことを認めました。

それに田高崎の土地購入費の二十万円これは遺憾ながら今日まで解決
できておりません。この件にしましては、右程当局から市説明があると思
います。よろしくお願いいたします。以上決算審査に因する説明と
終わります。

三四番(鳩貴社作君) 只今調査委員の市説明で高崎の二十万円の問題で
あります。その後、どうなっておりますか。一面市報告をお願ひします。
市長(田村利男君) 昨年度の決算におきまして、高崎の旧村の二十万円
の問題が不承認になつております。その在市におきまして、当時の村
長野島氏に市役所に来ていたとき、当時の様子を書き置き、高崎又当
時の相手である、森田氏と取組に添ひまして手紙で挨拶いたした。又

その親戚と申しますと、森田氏の妹さんが嫁に行っている黒川氏にも
来ていたと接済いたしましてたが、その内容につきましては、課長から
後程説明申上る、望みますが、黒川氏並に森田氏の言を承けては
必ず当人達が弁済するという言葉を聞き取りたいので市の元針としては
森田氏と云われる筋のあるうべく考えますので、今後更に森田氏、又
親戚の黒川氏と通し二十万円の納入の面に努力したい考えである次第で
ございますが、尚最後にどうも後々なりという場合に至りましては
更に野村村長甚十分連絡を取って結果を上げる考えであります。

二四〇回(森田七郎君)この問題について一寸お聞きしたいのであります。

私は、当時特別委員会の長を務めておりまして、たゞ非常に当局が
努力しているとはわかったのであります。いさゝかめはそれの感がある
であります。

そこで市長さんにお伺いしたいのであります。これは既に処置しなけ
ればならないのであります。本人に交渉も結構ですが、あくまで

当時、村長の野添さんに、補償の裏付を、と、ソレタシ、これを取つていたが、何故なら、監査委員の調査した如く、村会も、聞く暇もあつたにもかゝらず、寧ろ、処分を、と、おやり又、金も、支出に、当り、収入税の手を、強ないで、行われ、あり、しかも、呼取が、おあり、あります。当然、これは、村長さんの、その責任であり、私は、補償するべきか、至当であると思ひます。もう、でなければ、いつまで、たつて、解決は、おなひと思ひます。

そうしなければ、当時、村長の責任問題として、どうかと思ひます。

黒川氏ある、は、野添氏の、市、両方から、速かに、いつく、まで、責任を取つて、弁償する、という、一れも、取る、という、ことを、特に、申し、出、して、置きた、と思ひます。

市長(田村新太郎)この問題につきまゝ、では、黒川氏が、責任を、以て、おなひ、という、やうな、こと、であり、ます。た、ので、市、とい、た、一、ま、では、実、害、を、こ、う、ぶ、つた、二十、万、を、え、入れ、は、よ、ろ、一、い、と、い、う、と、で、さ、つ、つ、の、黒、川、氏、至、心、に、お、お、田、氏、を、責、め、て、お、お、り、ま、す。

野原氏との交渉は放棄したわけでは有りません。のてごく最近市
会でも残りきりたり東京に交渉に行き解決しない時は、野原村長
と交渉解決するつもりであります。

三番(田村長(野原)氏)當時の問題につきましては、当時私も議長のはしく
れであります。だが、何とかたもつけなければ何とかなりて當時の跡
名を注いで貰わなければ困ると再三お願いしたのであります。市友
さん、の云々、まあと少し食違ひがありやらないかと思ひます。

市長さんには責任を以てします。私には責任と、うことは決して云わ
ない。何と云うようと曖昧なことを云うております。これは何か散
生田さんの云われたように何か詰問してゆかなければ解決しな
いと思ひます。以上

三四番(鳩山正作君)私がこの問題を版上にてお尋ねした訳は、三十九年
末の決算をする場合どうしてか、いふさうぶるさうぶるの問
題と考へるからお尋ねしたのであります。

たろうと云う二十九年度の決算案に解決と款一かゝると思ひます
それが出来なかつたを云ひます。今衛生委員が云われた通りこの
問題の野原村長が詐欺と云ふ訴えたと云ふ野原村長に重大な過
失があると思ひます。

この問題の解決に一段の努力もなされて然るくこれは特別委員会の手
にかゝると思ひますが、それが、決定する前に解決して款一いふで
あります。

市長(田村利男氏)三十四番に答へます。なるべく出来れば二三日
の内課長として東京に行かせまして、先ず提議をせよと解決に努
力したいと思ひます。

二七番(伊勢仙之助君)監査委員の意見書の中に大入事業費不足の原因の最大
者は市税の手算が不足であると思ひます。もう一つは市税の
パーセントが多過ぎたように思ひます。その他大入事業費不足は滞
納整理が完全になかなかつたと我々と思ひますが、この点について市長は

予算が過大であったか、あるいは滞収整理が不十分であつたか、この点に
ついて市長の見解をお伺いします。

市長(田村利男君) この問題は、当時の市長の取られたものでございます。か
つては、否かと思ひますが、滞収収入も過大に評価したこ
うなことは、過大に評価せざるを得ない当時の火事や焼けた直後の状
態としては、過大に評価せざるを得ない状態ではなかつたかと、私は想像
しております。滞収処分も当時の状態としては、もうきつて出来なかつ
たんじゃないかと思ひますが、少くも昨午迄当初におきまして、私は
その滞収処分も努力を上げて致してありますので、今後は未だ解決に更
にくに努力する覚悟でございます。

ニモ番(伊勢仙之助君) どうも市長さんの答へへのポイントが、いづれにあるか不明確
であります。収支予算と昨午迄の繰越額と、ほぼ大差がないのであり
ます。滞収整理に努力しておることは認めますが、数字の上に出来
たものは、余りいふ成績が上っております。こういう点から予算の過

大いふことより、常設整理に不充分であつたという点がかなり強いといふことを考えますが、過大評価が常設整理が不充分であつたか、どちらに大きな誤りがあるかと思ひます。その点も明確にしたいと思ひます。

市長（田村利男君）昭和七年春におきましては、恐らく只今のよう、臨時処分につきましては差押え、あるいは競売という手を用ひておりません。ひいては、緩慢であつたかも知れませんが、その欠点を、拭うべく競売に昨年なより、臨時処分をとりつゝあります。

二七番（伊勢仙三助君）私のおつてゐることは、いわゆる道直委員から出た予算の過大評価というところ、問題があるわけですが、これとこの支出の不足の要因に、つゞいて、重負があるか、ということを用ひてゐるのであります。謂所予算編成が間違つてゐるか、ということも、はつきり市長が認めざることを、うゑであります。

あつては、臨時関係の整理が不充分であつて、赤字が出た、かゝる原因

かいつれにあるかというところはもうと申したいのであります。

議長(石井原君)休憩いたします。 午後十一時 五合

再開いたします。 午後十一時二十分

市長(田村利男君)二十九年春におきましては、常設疎救会に對しましては、七五、五〇も見積りておきます。確かに區々に見積りであると思ひます。九一と又その徴収方法に對しまして、幾分手ぬるかつたと思ひます。

八番(小沢太助君)只今議題となっております。認定才一号から五号までの審議につきましては、直ちに決算審査特別委員会を設置してこの原案を付託して最も精密な審査いたしたと思ひますので、この動議と提案いたします。

議長(石井原君)お諮り致します。只今七番議員の動議に依り議ありませんか

異議なしの聲

議長

一 員 山 市 議 員

議長（石井繁君）御異議なすものと認めます。よして認定第一号。乃至第二号は決算審査特別委員会を設置してこれに付託することに決定したのであります。

それでは決算審査特別委員会の人数及びその送任の方途について御意見を伺います。（議長一任の声あり）

議長（石井繁君）議長一任に御異議はございせんか。

異議なしの声

議長（石井繁君）それでは人数の点はさがさしよろうか。一八番（小沢大助君）決算の方も勿論大事であります。が新年度の当初予算の方には各位が適当ではなからんと思ひます。

議長（石井繁君）それ今十八番議員より決算特別委員会の委員の人数は大体九名位とらう御意見がありますか。これ御異議ありませんか。

異議なしの声

議長（石井 潔君）それでは御異議ありませんと認めます。

加名とゆうことに決定致します。

議長（石井 潔君）暫く休憩いたします 午前十一時三十分

再開いたします 午前十一時四十五分

議長（石井 潔君）先程の決算特別委員会の委員の人数を決定
するにたいし御報告申上げます。

二番議員可世太芳藏君 三番議員福岡保徳君 七番

議員磯辺周雄 十番議員飯田義男君 十五番議員

遠山ヨネ子君 十六番議員脇田曜一君 三十一番議員

松平藤太郎君以上の通り決定いたします。

御異議ありませんか

異議なしの聲

議長（石井 潔君）御異議なしのと認めますようさよう決定

いたします。

議長（石井繁房）平決算審査特別委員会に認定第一号
り至五号を一括付託をします。

審査委員のより今報告申し上げました方々におきましては
委員長、副委員長の至送を休憩中に御決定願います。

これ下午前の会議を打ち切ります。

一時まだ休憩をします。午前十一時四十八分

議長（石井繁房）午後の出席議員数三十名をより休憩に
引続き会議を続けます。午後一時五分

日程第二議案第十一号の上程をします。

書 記 朗 読

議案第十一号 一時借入金議決変更について

総務課長（虎戸貴男）議案第十一号は、説明をします。

現在鑑山市に借りており、一時借入金総計は千

六百三十三万七千七百八十七円とあります。

実際には五月末までかゝりなければ償還出来ないと考
りぬまの下であります

千葉銀行から借りております分につきましては銀行のケ
説上期限は三月三十一日となるのでその保に味うておられと
考へるものでございます

三田善(鴻巣社作君)奥達性がありますからお尋ねする人です
昭和三年一度は一時借入金となつたにあらは利息がどの位
にかゝるかお知を願います

総務課長(元戸貴人君)お答到します

当初二百万円計上をしまゝにかゝるの百四十三万八千八
になりまゝの下大抵二百四十五万位と思ひれます
課長(石井源一君)十五号議案に對して御異議ございま
せん

異議あるものの声

議長（石井素君）御異議なすものと認めます。よて下米
は原案通り決定せしめよう

議事日程五議案ヤ十六号十七号五上程をします

書 託郎読

議案ヤ一七号 一時借入金に付

議案ヤ一七号 一時借入金に付

総務課長（完戸貴君）ヤ十六号議案に付御説明申上げます

昭和三十一年度は赤字を出さなう努力をしております

すが三十九年度に生じました赤字が更債的は三百万

ございませう。どうも一十八百万から二十万程度はこの

赤字が未解消というところになると思ふのでございませう

この赤字はツレ帳上げを甲うなければならぬので

ございませう。年度内に帳上げを甲うト必要を借入

れに五千万以内下到来りと考えらるゝものでございませう

厚生課長(羽山房雄君)十七号議案を十六号議案の一時借入と

同様公益債償還会計に当てゝるために借入した事
考へるものでござります。よろしくお願ひ致します。

議長(石井宗君)十六号十七号議案御異議ありませんか

異議なしの事

議長(石井宗君)御異議ないものと認めます。よろしく議案

を十六号十七号議決決定いたします。

議事日程第四議案を十六号議案として上程いたします。

書記 朗読

議案第一八号 起債に付して

総務課長(元戸貴君)議案を十六号議案として御説明申上

ります。御山市に財政が困難な市にあつては

見込まれてゐるのでござります。

よろしく御載し。左起債に御入ぐことと

官山古義會

りますか三十一年度におきまゝして各様事業
に相当額の起債は財政として見込まれておる
ものと存じます。ここに記載した起債の計画
するものがございます。

鑛山町のようには財政が困難な市におきまゝしては
御承知の通り事業執行に当りその財源は
起債に仰ぐこととなりますが三十一年度における
各種事業には相当額の起債が財源として見込
まれます。おのりでございます。

よつてここに記載した起債を計画するものとござい
ます。予算に計画する一額より若干多くありま
ります。これはソコソコ場合例えはある事業
で他の市町村におきまゝして起債を繰越するところ
ような場合にはこの繰越した分が特別にこちらに

考慮せらる場合もありますのでこの金額も何百万円以内と規定するものではないです。

三十四番(橋貫仕伏君)別下への起債について反対するものであります。今までの年、起債額が予定して決めていふんです。がどの位の額が認可されてくるものか恐入ります。が三十五年度は起債の申請したもので対してどの位の額が認可されて来てあります。がそれをお知らせ願います。

総務課長(元戸貴君)昭和三十四年度におきましては市債入の総額二十七百九十万円とありますが、許可になったものが大体半額に考へてあります。

三十四番(橋貫仕伏君)今年来そうもなり見込のものをか
あります。

市長(田村判男君)議長、秘書長、各に願います。

議長（石井 繁雄）これより秘密会に入りますと思ひま
す。御異議ありませんか

異議なしの聲

議長（石井 繁雄）それでは全員御異議なしと
認めます。それより秘密会に入ります

二三番（山平 昇君）（秘密会）

起債にフットの議案であります

すかッソ

昭和三十一年度における起債の

実行は約半額しか認められてないのであります

ありまして、第一方針を建てたには事業を

する必要で建てたのであります。昨日たうとうこと

を見込んでやうことをとるかと思ひますがどうも事業

遂行上は事であるという甚中、的なる像にゆず

起債の認すを要するよう努力すること切望を申し

まゝ本議案に賛成するものであります

議長（石井繁君）暫く休憩いたします 午後二時三十分

議長（石井繁君）再開いたします 午後二時五分

議長（石井繁君）十八番議員と二十四番議員の質問に
対する建設課長の答を求めます

三浦黄島貢（佐作君）何の場合の古はつきりしよーたからその

夫三十九年度中に船舶の喫水高修築するのには鑑山市

の負担金は分りてゐるからその額とそれから船舶が

り昇附したる金との額とを知らねばならぬ

建設課長（新井重助君）船舶の地元負担金と在り

しては市の負担金が三百万円その内訳として地元から

百万円の昇附を授けらるゝに在りてあります 総工費は果

が直営で在りてありまして千二百万円下ることになつてお

ります、然るで起債の認可は百二十万円来てあり

ます。

三十四番（購買仕仕君）をさうと鑑山市から負担するものか
③三分の一であまかぶるかどうかをききりておまけなければ
後味が悪い旨味の悪くちようをききりてせやんと
思ひます。

建設課長（新井重助君）負担金の勘合精算して畢
有りまた勘合はこちらに返してあります。勘合の処置
三十四番（購買仕仕君）返してよこした時は取返した
まうていたふきまうたりであります。

それと三分の一返してしまふからいふところなりでは
市民の金も返してしまふ組合の役員も方々に
申ひなくちります。それと申上げらるわけであります。

建設課長（新井重助君）それにつきまうては万全の措置
を取ります。司説より小沢議員さんの御質問にお答

元します本年度三十一年度に施行いたします。前掲の修築事業は約千五百万円の予定で果て組んでおります。かゝる補助金の率の引上げと云ふことは、或る決りまうのであるが、突発の場合には今のところ市の元には

何等補助金の率の変更になつたという通知はござません。三十三年度の事業が確定して地元の負担金が決まるとにちております。又補助金の率がよりましな時は

それに応じた地元負担金を少くしようと考へております。

一八巻（小大助君）又今課長さん御答弁とす。但し現在承知してゐることは少し違つておりますが、当初一千二百万という事業費が認可になつたのであります。か免違つて再確認をすまうと云ふことが金体的に果て下、削減と云ふことになりまして、その一割減はあります。けれども、能助の場合には一千二百万以内、五十万削つて現在確認して

いふものは一千五百万に上るものとあります

従つて本年度政府が決めました三億五千万に對しては
其國の補助は天國と計算致しますと國が五百二十万累
二百十方ちの百四十万田受益者として六十三万田買地
すれば一千五百万田出來ると考へありますかねはさういふ
ふうにはやるものと確信し確信してあるであります

三十一番(田村吉吉兵衛君)小矢議員先生にお答えします
國の補助率が増減に當つた場合には地方買地金も
減ることを考へますかさういふ場合にはその綿にす
ること考へてあります

その他から田村議長先生にお答えします一角と工事を進め
場合請負の場合には税金がは出て来ます但し修築まふ
とかさういふ事と總流事業とは年度別に考へます

例へば三十九年度に一千万工事をやると總流事業

でございませうから税金がございまして又工事を強し一千万
円使うとまうりうまうになつております

八番（小沢大助君）大伴課長の説明は辭解しよしたか
あか今ま考へますのは國の予算制であるとか県の
予算を貰うとまうりうまうになつてどうも自動的になつて
算を盛よくねあつた事や仕事をするところ他動
的に考へられませうが私はどうでなく寧ろ鶴山市か
産業振興のために自動的にその予算を獲得し
て建設するところ考へますと電料をたかまつたりと
思ひます

議長（石井初太郎君）他に御質疑はござりませんか
別に御質疑はござりませんか

異議なしの聲

議長（石井初太郎君）それでは御異議なものと認めます

事を原果通り確定せしめた。就て日往り五議案
を十九号五上程とせしむ。

書 記 朗 読

議案第十九号 館山市職員給与条例中改正につ
ついて

秘書課長（山谷珪和君）議案第十九号は、こゝで御説明申
上げます。この度館山市職員給与条例中に、この取
務基業の附表を加えたいと思つたのは、この附表
は内容にあつてよく、か違ひますか。市村の合併
直前まであつたものでござりますか。むねを合併の直前
に議会におつて廃止したをござります。

主事は王級の一号から格付せぬことにあつた。是のやう
に、合併取負をみますと旧市の取負にあつて
四年五年勤務してありまして、依然として屋敷あつ

たのでございませう。旧村の取置にあきまゝては就取單々
主事や給子も二級・主級の主事かかなりあるのをさし
それ面をのまゝこの附表を生してそのまゝ採用しなうか
主事の身分を下げるわけにはいかならうか。取務基準
によりどうしても主事は主級に格付けなければなら
ないところをこのまゝのまゝの附表を改してあきまゝと旧村に
就取したために二級・主級の取置が一躍主級の取置と
なってしまう。旧市に勤務してある、次に四年主事勤め
ても登は依然として登で主級に上げないとどうして
仕態であります。左の合併の直前に廃止したわけが
いまして残つてあるものは条年条例に取務基準とさ
ものがありませんが、この表と違ふところ、文章や書表してあり
ますのや人の解釈によつてさまざまの誤な解釈もされが
たのであります。そのためにその取務基準に差をまゝして二つの

表を作りまして取負の給ふところ極度まで昇給した
時は停上させようの停上させようとする取負の対して
は甚だ不利益なきを下すの事と云ふ取負の事と云ふ
一応思わくちのと見受けられますかとの反面基準表
を張り出した場合には勤務成績の良し取負にあきま
ては我々は努力せよと云ふ上の人だという意図があるもの
では有り持たせることが出来るかとあります現在の給与社能
ましますと以前採用する当時にあきまゝしてその頃は格
付と云ふ方面に肉心かたがたの相違高給で採用された
—入った人等もあきまゝたため取負の給与は相違なく上
廻るものであると云ふ事なので取負基準表を作り押さえる
事はあると云ふ取負基準表がありその表が内なる時は
どん／＼昇給したと云ふ時は現在年五才三十才の取
負の中には五十五才のに達するまで四万五万の高給者

か出さるゝでござりまする取戻にこそは喜ばしうござりまする
でようかござりまする管理着取戻と他が市民にあらま
そ相当内心もあらまあらまござりまする市民は身命あら
納めざる税金を以て格別におわけてゐるあらまにた
人給料を貰ふておてござりまするこれ税金の上
るのも無理がなう要するに取戻の利益と市民の
利益といふものは相反するものをおさいまするうて
中肉の中はあゆかなくござりますると思はるが
圓合併直前よりなる基準表をその当時定めた
ものがある程度均等な欠つたものを訂正しまして今
圓提出した使方下でござりまするしく御審議のはめ自
あら願ひ申さしまする

二王爺(遠山ヨネノ君)いまのお話の通りに随分市の財政に關係
してござりますると思はるがそれ今市に於てござりまする

あなうにむかふあ何そとす

秘書課長(山谷樗牛)

これを作りたいと思ふのは合併後にあきまゝで給与の調整があり相当調整を考へたか現在はまだ近ところまで来たかどうですか今までは主として事務所に勤務した年限により調整して来たのがありますか勤務年年限の調整だけでは思ひ足りない過去の経費負担を考慮しなければならぬという意見が相当出て来たのでございます。そのためには事業性度の停止させるものを出来て又昇給されるものを提出するのやむを得ないです。今までの昇給はけいねいなるのをあきらめて下今度の基準を提出したと力でござります。

一王春(遠山日新より君)船橋でも相当に下り敷といふ難を伺ひ
もたてすが、長い道、私鍾よはるの量よかを研究された

そすですか 今度二枚を提呈された取置から要裁
かあるんですか又研究する考査会を作りまたですか
秘書課長(山谷純和君)これはたゞ一応の取務基準で差
入るものであって取置制に基くものとは違ふも思ふます
省中といたしましては 今のところ制定する考査はあて
ありません

ニ七七(伊勢仙三助君)課長の答弁を申しますと私達はあ
れを条例に記してありますんであります云々なりんですが私は
すなわち市の条例全部一議決案に覆して欲しいと云々を
述べたのを議決のしようがないんですか 実際問題として
取務内容の階級が不明でござんてござんて正しく判定
せうんですが実際問題として実施した時給年の引上
がも頭打ちの人がすくぬとどうなることはあ
りますか

秘書課長（山谷相起君）すぐ適用した場合頭打ちになる
のが主事で一名産で一名ぶさす、それから引揚げになる
その産は一人あります

二十七番（伊勢仙之助君）課長の最高と最産はくが課
長補佐の最高と最底とまうう系主任のと産のそれと
の最高と願を教え願のちと思ひます

秘書課長（山谷相起君）それでは基準願と思ひますが最高と
最底と申すは

課長た教の一号二万五千五百円最高が十二後の二号で三万
五千三百円 課長補佐が七後の一号二万八千円から最
高が十号三万五千五百円 最底が四後の一号二万五千
円 最産が八号十号

十号の八号三万五千五百円係主任は最産五号
の一号二万五千五百円最高は後十号二万五千五百円主任の

最低 五級の最高より一五万円少四級の二号五十九百円七級
最高八級十号一万八千四百円五加級の最高が
二級の二号五十九百円最高が六級の十一号二万二千六百円
自動車運輸手帳五級三級の二号五十九百円最七級
十号五十九百円タイヒストは運輸取手と同じです
三十二番(望月軍作君)九社の山谷課長の説明ではわかりませんが尚
お伺いしますかこの基準どうして現在の釧路市に役所が奉
取している人をヤベにとはまはめたものを採集したものがあるわけ
この取捨の要の少シさという問題どうして決めたものがある
いは釧路市の近ところを調査した結果どういうふうな結果
あるのかを伺います

秘書課長(山谷雅雄君)その基準は一元先結中上げま
すようになさるとしては出来るのでお伺いしますかお表として
しては各市のものを参考にして禁止処分はその元として作製

年一番(松島藩本即見)十巻の最高は八号子多而少と嘉享十二帳

昇格しなすを要す

少者課長(小谷和起君)

十卷の入手十二卷の不足は号数表によりまして悉く
最商でございませう

それから取務の質量は先般市上げをしたようにこれは一定
質量と厳密に調査する場合係数も主事ともは細か
く分類してつくと簡単に出来るものといふことで取務基
準表を右に示めた。一筆でございませう。それから頭打ちに
なる場合は昇格期間を延長するものになります。

それは昇給に因する規定に定められておられるのか
頭打ちになるお時はその昇給期油を倍にするとか
春日佐とまで昇給させ特号が出るわけである
春日番(伊勢仙之助君)課長の差に因するより
関係の課長との差をつくられてあります
こそお伺いします

秘書課長(山谷利和君)教育委員会長の課長と本庁の課
長の差でございすかそれ各自自任と本庁は取柄が違ふ
と考へます下ゆたふでございすか春日番(伊勢仙之助君)
尚他市はあまもーと一応の線に押えてありますの
相当研究されてあるものと考へ又内容にあつての
差はあまものと考へます一とこの線に押えます
春日番(春日貴仕作君)二俣三つものま付けたりはな
とて根拠の概念と考へたらさういふものなつてはなかつた

といふ特筆を説明して見たかと思ひます

秘書課長(山合親和君)先程協定書に申上げました通り

もうこの面では元からの是でござりますか所なために例え

巻の正数の取負又二巻の取負が主事の試験に合格した

時は我々はすぐ四巻に上げるそれからさう――主事に

なり昇給して一巻で止るしまたその場合その上の係主性

にあり昇給して一巻進長になるさうさうして仕事

の意欲が出てくると思ひます。それと作り書きと云ふのは

一巻に上る人などゝ急料をうけては困るかとさう云つ

又最高を押へることはできません。能く代々の費用がま

ちやねとありすまのうちにさういふ人を見てもよくの

カーは入る市成に――なりといふ。そのあた最高を押へる

この二文でござります

手由 嶋貴社作君(さういふものをつけたいは煩わしい不

合理的な事を示してゐると思ふ

秘書課長（山谷相組君）この基準表を作つたために煩わしいとはどうかと思ひますがこの制度が出来ますと取資の勤務仕光勤務評定というものを良くわけなければなりません主任にするにはどういふものゝ主任にするかそれが煩わしいとは思ひますがどういふ上長は相當考慮は扱われなければならぬと思ひます

三田番（鳩曾又仕作君）それを作すといふ力のことをよく悪い煩わしい事が出てくると思ひます悪い面助からぬの面がある筈です秘書課長（山谷相組君）若しどういふことをさせると例えは主事雇の最高切やせられぬ一年たつなければ昇給しなうんだというふうにつて下仕事上に対する意欲おれは知識と実力によつて決いて課長近色ちの勤務年数もあるのはこの表により昇給が課長よりうんとおんやていふふう

いふこと下の者。給与を西人引上げてやれといふことと
考へてもよくあるわけでありませう。それからの命令もつある
取極と重要性といふことを現ることにする。依り決められた
者の不齊も相当出るといふと思ふ。一巻が人にあること
は自分の最高給を押し上げたもの。相当年数がたつたけれ
ば昇給出来た。ソ一年半—三年—五年—とたつたければ出来た。ソ
片方の方とはどんな上り下りもする。押し上げられた人の元はソか
に能力がある。も課長と課長補佐といふものは定員とか一
定数とか決めてあり。そんなうその人以外の人は現在の自分の
の取極に満足しなければならぬといふ。よつた。不満が出ると
のであり。もうす。か。そう。いつ。思。いつて。在。だ。とか。主。事。の。最。高。回。を
どこにもそ。ゆ。く。か。さ。う。是。と。横。の。バ。ラ。ン。ス。が。統。一的。に。適。正。か
ど。か。さ。う。是。は。内。題。が。あ。る。と。思。ふ。ま。う。不。満。が。出。て。く。る。是。は
さ。う。さ。う。是。だ。と。思。ふ。ま。う。

三十四番(購買仕作居)を以て何等の不平不満の出るもの
とを聞かぬ。又山谷君のこの方面を突きまゝに結
局しようものなればならぬ。理由を御説明
願ひます。

秘書課長(山谷君) 取替基準を明確にするにはこのこと
でございます。

千五番(遠山君) 今課長さんの説明で前正を加えるところお話し
ですが、今まで加へてないものを加へて出さんですか。

秘書課長(山谷君) その給与の調整につきましては、早給の
度ごとに頭取もしてあります。経験年数を加へるに
しては直ちに過去の経験年数を加へることもなく、な
しのやうなものです。現在はその市に勤務した勤務年限
を主として早給算してあるでございますが、それだけには
いかぬので、今度はその過去の経験年数これに相当する

れずして前に四から昇給に加味してあります。がその方が
だけを急激には出来なうと思ふのでございます。もうて過
去の経験年を取った場合には現在その基準より十五号
も十五号も上廻るものもあり十五号十五号も下廻るもの
もあるのでございます。今を取て来た勤務期間だけで二
ますと大変へんとも思ふけれども過去の経験年数
を入る時はどうしてもこれをなおしてゆかなければなら
ないという面が出てくるのでございます。

一五番（遠山ヨネ子君）ア、教と思ひますが、見方と取り方
によつて違つてくると思ひますが随分その問題は皆事
に取て大きい問題と思ひますが是よりした取階制でなく情
更に入れば本當にむかしと思ひますが

秘書課長（山谷祐祖君）その矢はつきりしては取負の大部分
が満足するやうな昇給方法を取つてゆきたいと思ひます。

この基準表を提案すよにつぎましては一応取負組合の幹事
の方とも相談いたしましたのでございすが一級だけこれを上げ
て貰いたいという意見も出たのでございすがよろしきやうと次
の者と同格になり最位には課長を十三級にまでゆかたけ
ればならぬのでございまして取負組合でもそれゆかなければ
ならぬので組合でもこれは相当研究されて出来たものだろ
うからまあこれでよろしい。さういう意見でございするた

実際の昇給にあまりこの基準が出来ましたからと云て過去年
数を計算してすぐそこまでもそれゆくとか又すぐ止めてしま
う。このことは出来得ないと思ひます。それは取負の矯正するよ
うな方法で運営してゆきたうと思ひます。

一五番(遠山ヨネ子君)この問題は非常にむづかしいと思ひます慎重
にお願ひしたうと思ひます。

三七番(伊勢仙三助君)今の場合この表を四月一日からすぐ適用し

て、制約すると思ひおりますが、適用する人でしょうか。

秘書課長（山谷親君）この表はすべて適用いたしますが、過去の

経験年数を直ちに日とは出来ないのでござります。

三吉（伊勢仙三助君）頭折てに對しても適用は昇給の元を

を再考するものでござりますか、これを決められても、いつとそう

措置が出来たりなりという点、非常に重要な問題である

と思ひます。私達の希望としては、雇主側の最高が非常に少な

いという関係から、相当に組合に異議があると思ひます。又

陳謀長の前下市役所の組合組合は特殊関係にあるので、強く陳謀

市長に発言出来ないので、これが実情と思ひます。他の所が

どうであるかを考へてやらなければならぬと思ひます。号俵

の値の不協の事が口に出さないので、内心どう思ふものがあると思

ひます。実際問題として、もうこの二開きがあり、過ぎると

思ひます。ここで良く審議される内に決定されてしまつては通

正であればいいと思ひますが、なれば將來不満を残すと思ひます。その是に於て私は給年条例を升せてゐるが、その程度の審議の期間を与へて貰ふかと思ひます。私としては判定しかたより更情であります。それをよく決めることは不評でございます。

議長（石井素子）休憩をします。午後二時五十九分

再開致します。午後三時三十分

一（小沢大助君）只今議題となっておりますが、議案に属するものは、いろいろ御意見を述べてあります。その二は、総務委員会に附託して十分審議していただきたいと思います。御意見をのぞいて、御意見を述べたいと思ひます。御意見をのぞいて、御意見を述べたいと思ひます。

（賛成の声あり）

議長（石井潔君）只今十八番議員より本案を統務委員会に附託慎重審議するようになんて動議がございまして、たが、この動議に対して御異議ございせんか、異議なしの声

議長（石井潔君）御異議ないと認めますよ、って本議案は統務委員会に附託になりました。

統いつて日程第六議案第二十号、二十一号、一稿上程いたします。

書記朗読

議案第二十号 館山市役所出張所設置条例中改正について

議案第二十号 館山市公営式条例中改正について
統務課長（完戸貴君）議案第二十号につきましては昭和二十九年十月に県の地方課から参りまして館山

市の行政査察をした事がありますが、この際、果
 からの意見によりますと、合併後一定の期間を経
 る間は止むを得ないが一応一定期間を経た場合は
 旧市の出張所は一応考慮してはどうか、六村を
 合併して市の区域が拡大した今日、これが設置に
 対し再検討する必要があるではないかと指摘し
 ておりますので、その後両地域の三十九年度中の
 年間の利用度を調査いたしました所、館山那古
 地区におきましては大体一世帯当り一年間の利用
 度は一回から一回未満でござりまして極めて少い
 のでございます。又すでに廃止して実地しており
 ます。県内の市におきましては廃止後は何等支
 障なく運営していることが報告されております。
 尚、本庁におきましては合併以来擁っております

吏員を自然淘汰を待つて整備する方針を取つて
ありまして本庁におきましても出張所を廃止した
場合那古船形に三名館山に二名おりますこれを本
庁に吸収して事務能率の向上を計ろうとする
ものでございます。

次の二十一号につきましては二十号議案に関連す
るものでございます。従来の館山那古出張所を廢
止の結果としまして館山と那古の二ヶ所の揭示場を
除いて改正しようとするものでございます。

三番（福岡保徳君）二十号議案によりますと二ヶ所の
出張所を廢止しまして後旧六ヶ村の出張所の方
はいかがしますか出張所がなくなつても揭示場
はそのまゝにして揭示した方がよいと思ひますがこ
の点はいかがでしょうか。

市長（田村利男君）三番議員にお答えします。

旧六ヶ村の六出張所でありますがすでに他市にお
きましては一率に出張所を廃止したむきもあり
ますが、館山市におきましてはそういう方針は取らず
暫定的方針を取り直して将来一年あるいは二年の内
六つのものは統合あるいは廃止するなり将来、人員
を活用し、効率旨に太うようにしたいと思ひます。
それから、掲示板のことにつきましては、課長をして
答弁させたさせていただきます。

総務課長（完戸貴君）この公告式、条例は自治法の第
百十六條に基くものでございまして、議会を議決さ
れました事項はそれ／＼期間内に公告式、条例
に基き、掲示場に掲示する事になります。が、出張
所の廃止された時はこの名称等につきましても困り

ますので、出張所に件いまして、揭示場も廃止した
いとこの様に考えます。

十四番（飯田義男君）先ず始めに市長さんにお伺いします
が本案は当然地元市民の納得を得て出された
ものと思います。がその間の地区の議員の方々もお出にあ
まと思ひますが何か新聞紙上で見ましたが本案を
出すまでのいきさつを御説明願ひます。と思ひます。

尚將來出張所の統合配置と云う事は地区民は
重大問題であると思ひます。従つてあくまでも
地区民の意志によつて決定するか又は市長が不
必要と認めた場合は市長自らの裁断によつて改廃を
決定してゆくか、この点をお伺ひします。

市長（田村利男君）お答えします。

館山那古両地区の場合まあ地区代表ではございませ

が地区から選出された数人の市会議員にお集り願
いまして世論をお聞きしまして、更に市側の希望をの
べまして両者の歩みよりが出来ましたので、今回廃止
する事になったわけでございます。

それから將來の六出張所の問題であります。これも
あるべく地区を代表する方あるいは地区民多数の御意
見をお聞きしまして、実際にそくした方策を取りたい
と思っております。

二十七番（伊勢仙久助君）私はこの統合配置について、館山地区
としましては、一応住民の福祉をだんだん削られるとい
う事については賛成しませんが、いのであります。が、これの予算上
の事からという事です。が、現在年間との位予算を使ってい
るかわかりませんが、各出張単位ごとに人件費とか概略
の経費、そういうものがあつたり、御発表願いたいと思ひます。

我々館山の地元民とすれば、地理的に於て館野から出張所に来る場合と西ノ森から来る場合では寧ろ西ノ森から来る方が遠くし住民の世帯も相当大なる数字になすものに何故館山を廃止して此の所の出張所を残すのか、それは取務の内容が違つてゐる少しレが仕事の内容を授けてゐないやうから六村の出張所と同様に授けられ不公平ではあいかと云う意見もあります。廃止するから理由の立つ様には距離とかそういうものを考へて、網傳のゆく様で館山だけを残止するからと条件的にいふところを総合配置しろと云う意見が出ております。私はその意見は最つとも正しい意見であると考えております。

我々地区代表としては非常に困つたのでありまして、館山の出張所に予算がかかるから止めるんだ、那古の出張所に予算がかかるから止めるんだ、しか——六村の出張所

は複雑な事情があるので予算が、それでも残しておくと云う様な考え方は、市民は納得がいかないのであります。先ず第一に予算が大きな問題にぶつて来るのでありますから、予算がどの様に、いついつか、その状況をお知らせ願うかと思ひます。

それから、あや山と那古を廃止して住民の分布状況から、ソート統合配置しても良いものを残すか、この見解について、説明願うかと思ひます。

市長（田村利男）課長をして答弁をさせます。

総務課長（元々貴君）お答え致します。

出張所の予算は僅少でございまして、人件費につきましては本庁の方から支給しておりますので、経費的には判明致しませんが、大体各出張所とも七、八万から十数万位、少ないかと思ひます。これを廃止した為著しく経費

が敷減するとう事をほかく、二十九所、度々、果の査察を有
頼されました通り旧市内だけならほとんども、由、大村を和え
まして、地城も非常に広範囲にわたる際、ごく單純な事
務を扱ふ、この館山と那古船形の出張所を廃止して、これ
等取員を本庁に引上げ、事務能率を高め、う方がよ
うしんじやないかと考へるものでござります。

尚、館山と那古船形の出張所を扱ふ事務内容でござ
います。が、旧村の出張所を扱ふ所、その事務内容の
事務を扱ふ所、あります。せんので、著しい事務内容の相違で
ござります。

二十七番（伊勢仙之助君）今の理由を聞いており、ますと、地城的に
見て、どうして、館山と那古だけを廃止して、尚、統合、廃止出
来る所を、何故、そのまゝにして、おくか、又、一方考へ、方によれ
ば、市役所、戸々の、郡都合で、やられては、たまらぬ、住民の、福

社とう事をまず第一に考えて住民の便利になる様に機
構を改革する事がマビス機関としての考え方ではないか
その点について旧市と新市に不公平な点が出て来
ると思ひますが、その点についてはおお考えになるかという事
であります。

総務課長（元々貴君）お答え致します。

只今住民の利便を考えて指置さるべであるという御
意見であります。御尤もな御意見でございます。

たに館山と船形の旧市内の出張所は戸籍等扱えあり
ません。関係で一世帯等利用数が極めて少ないので
ございしますがこれを廃止しても著しい住民の影響は無い
とはいふかと云う事が大なる理由でございします。

尚戸籍事務を扱っております関係で法務局等
に申請手続き等の関係もございしますのを一応三十二年

度におきましては旧市三所の出張所に止めておきたいと思
えるものでございます。

二十七番（伊勢仙之助君）手続等のめんどうもありましてしょうが、も
れは時期的な問題でありまして館山の出張所につきまし
てもお志を考えれば旧村の出張所と同じ扱ひをすれば
便利な事は、これははっきりしているんであります。

そういう実手続の、る期間その期間は止むを得ないで
しょうが、廃止するならば公平に、廃止していただく考え
方です。一斗も二年も不公平な方法をやられたんでは
館元の住民としては納得出来ないのであります。

法務局に出す手続きの期間も長くないと思ひます。
やうならば統合改定を館山郡五をやうと同時にもその
他も同時にやれと云う意見もあります。

やらなければ他の出張所と同じ様に戸籍事務を扱

える方法を取っていたければ一里も一里半もある所から
市役所に通めなくてもすむと云う便利な方法もある
んであります。その点について統合廃止する時期の
様々な問題についてもはっきりいましておいた方がいと思
いますので本年度はやらないと云う方式が立つから館
山も那古もそのまゝにして貰いたいと考えらるものです。

市長（田村利男君）只今館山及び那古地已へ戸籍事務
せと云う御意見でございますが、この問題につきましては
館戸籍課長をして答弁させます。

戸籍課長（伊藤幸太郎君）戸籍事務につきましましては、戸籍
取扱の原則はあくまで市町村、市役所、役場が原則
であります。たゞ館山市の場合は大村の合併により一
んど指置によりまして六つの出張所分割執務させて
あるのでございます。

現在の所原則としましては那古及び館山の出張所の
戸籍取扱はほゞ不可能かと存じます。

二十七番（伊勢仙之助君）はほゞ不可能と云う事は上級官庁の
許可が得られないと解釈してよろしいですか。

戸籍課長（伊藤幸太郎君）大体そう考えて結構だと思ひます。
二十七番（伊勢仙之助君）おはとの点について館山市が戸籍
を扱うかやれらと云う考え方をもちております。

その点について多少考え方の相違があります。その点
についてはやってみなければ分らない問題であります。

若し市でやるとはつきりおし立てれば住民の便益になる事
に對しましう現在大村合併した過渡的に出てゐる問題
でありますから片手落の様な出張所の配置に就ては
何とか特例で認められる解釈は成立と思ひます。

二十四番（菰生田七郎君）只今戸籍課長の答弁を聞きます
と戸籍事務は原則的に市役所で行ふ事はそうでございましょう。しからは現在やっております出張所は変則であり、ソツカは市役所に帰ると解釈していいと思います。従つまして二十四番議員が申上げました様に松達も館山の出張所を廃止させますと不便を感じずと思ひますが市長が人件費を節約し緊縮政策は諒としましたか。せうした原則論から課長の説明で取上げました内容の少い事又利用％チービの底の事は説明にならない。戸籍課長の説明で戸籍事務を扱ふ以上、少くも原則に則り今年中には富崎と神戸の出張所を合併するとかあるいは館野、九重においても然るもの原則に則り今年中には解決するとかう事を言明をお願いします。いましてこれに賛成したいと思います。従つまして市長さんの

言明と申しますか今年中にやると云う言明をお願ひしたい
と思います。

市長（田村利男君）二十四番議員にお答へ致します。

富崎、神戸を統合する又九重、館野を統合するあるいは館
野地区を廃止して九重だけ残すというようか、一、市長
案を持っております。一、かゝるあくまで地区民の納得に
より行いたいと思ひますが将来その線に添って早速四月
一日から活動するつもりですが、なるべくその線を廃止したい
確信を持っております。

三十五番（小糸光義君）この問題につきましても、私、伊勢さん
我生田さんと少々意見を異にするものでございます。

それは旧館山市が那古船形等と合併された時も、そうだろ
うと思ひます。又二十九年に合併した旧六ヶ村の合併もそう
であります。これは合併した当座は住民は不便を感じ

ずるだろうと云う意味に各出張所をもちて事務を取り也
として遠い所近い所を問はず旧村旧市では語弊が
あるかも知れませんが館野にしても豊房にしても始めて市
政に慣れるまで当分の間出張所を設けて置くこと元も那古
船形の場合も同じだろうと思ひます これは私の見解が違
ひましたらお詫びしますがそういう意味に今回県の査察に
即指摘にあった事を館山と那古の出張所とこれを廃止
するのと館野・豊房等へ出張所を距離が近いから止める
と云う事は少し理屈に合いませんと思ひます

館山と那古船形が合併し一まちとして出張所を今日まで置
いた期間、その間旧市の方々が相当市政に慣れて来たので
あります。旧六ヶ村の住民はまだ市政に慣れない方達で、実際
に不便を感じずるものがありますので、おいおいに状況を見て
そして、無駄な経費をばくとして予算を節減する

事はこれは改焼焼合は結構です、そういう風に実行して貰いたい、こういう風に考えております。

二十四番（教生田七郎君）お口原案に賛成致します。

上番（佐々岡爲次郎君）私も先般館山出張所焼止について焼見を求められ、買をすが、此の際予算も沢山かゝるから一応旧六ヶ村の出張所もあゝくに焼合、焼止する前提であつと云う事を賛成したのであります。が、引続き改焼焼合の線で話を進めていこうと思ひました。ところがこの話はしていい様であります。これは甚に遺憾でございます。と同時に、公告式条例でございますが、先般焼務課長は名稱が石から、公告を立てられない、かような御説明であります。たが名稱は出張所がなければ公告式を立てられない、かこの点伺います。

議長（石井繁君）休憩いたします。午後三時五十六分。

再開いたします。午後四時 五分

市長(田村利男君)出張所の廃止問題でございますが、市長にお
きましては先程の伊勢議員、佐久間議員、教生田議員
の御意見見を尊重致しましてこの二出張所を廃止す
ると同時に、残された六出張所におきまして地区民と十分な
話し合により、近き将来整備統合する事をお誓ひ致します。
十八番(小沢太助君)只今議題と成っております議案につきま
すは、六ヶ村の方にもうろ／＼御意見がある様に察せられま
す。よって私は本案をお預り願ったと思ひます。

十四番(飯田義男君)本案につきましても先程市長さんは
地元の方々の納得を得たいとおうお答えでした。が何かマヤ
／＼したところがあると思ひます。

私は本張所の経費の点では先ほど僅十才程度とおう事とし
たが、それ位では市長のポケットマネーで間に合ふと思ひます。

これはやはり市費のせず存続した方がいいと思ひます。

廃止した場合船形からバス代を便て来た場合年間にほ
幾大な金になります。その他暇も必要であります。又旧六ヶ
村の廃止につきましても今の段階としてはいまだ断言とい
て反対せざるを得ないであります。あくまで確約しなければ
はつきりしなければ本案につきましても私は反対致します。
市長（田村利男君）大々村と云う言葉を使つて失礼ですが六ヶ
村につきましても特に懇談致しましてその線に進めたいと思つて
ます。

尚二五ヶ村の問題につきましてもいさゝか議論もあり
まして、か経費の負担又吏員の等から致しましてとも平手議定
は館山市政の一助にもしたいと思ひます。是非夫を認め願
ひたいと思ひます。

十三番（山本昇君）本案につきましてもいさゝかの御意見がありま
した。これは館山地已と那古船形の出張所の廃止につきましても

何か私の知る範囲には市に通じている吏員が相当あり、こうした用事につくまゝしては住民の希望で吏員が頼まれてやうにやるといふ事を一応禁止する事が出来たとおふ事も聞けてあります。そういう事も考えられると思います。

尚又今市長から、統合禁止にしまゝしては熱意を保持して今後この問題に当ると誓ひ、いさゝか力強い御意見があり、まゝしたので、この市長の言葉を信じて、そして原案に賛成—たいと思います。

十四番（飯田義男君）度々恐縮ですが、山隔て、遠くから通つては不便な所にありますと、那古と館山の出張所が廃止されると將來私達の方にも近おつて来たところ、不安を感ずるのがあります。又はさういふ私の傾向に対して確答がありますか、んといさゝか不安を感じます。

尚現在の段階では市長さんが六村の事は考えておられないと

いうなり賛成します。が現在の段階では旧六ヶ村の廃止の事
につきまゝしては発議すべき段階ではないと思ひます。

あくまで反対します。

二十四番(教田五郎君)戸籍課長にお伺ひします。戸籍事務
は市役所とするんだと云うこの原則と云うか、原則と云います。ハ
それはその通りですか。

それが不確定なら反対したと思ひます。

戸籍課長(伊藤幸太郎君)先程申し上げました様に戸籍事
務にのきまゝしては市役所あるいは町村役場とやる事が
はっきりした戸籍法を規定されております。

で、今回の場合は合併促進法の適用と御承知の通り
合併の計画もござりますがそれ等にもうれております。計画
によりまして、民法大臣の許可の元には戸籍を分割したの
でございします。

今後新に館山の出張所等に戸籍を取扱めせるとかう様な事につきまゝしては司法大臣の許可が必要でござりますので矢張り私の申し上げまゝな様にます。この問題は困難でございますかと思ひますのでお答え致します。

市長（田村利男君）六丁村の問題に觸れるなと申されまゝだがあくまでこれは市長の意図でござりましてそれが議会の承認を得なければ出来ぬ問題をばありません。年の為六丁村合併当時の申合せとしますか整備統合は当時の村長により建設計画にもうれてゐる事項の一つでござりますので申上げます。

二十四番（萩住田七郎君）当局、説明請求致しました。出張所に関する事は一時的な利便に過ぎないと思ひます。又この鉄則を曲げるわけには行きません。

社長さんは地元民と良く話合の上整理統合するとう

ことでござりまするのを原案に賛成致します

十四番（飯田義男君）又今当町の村長と決めたものとおっしゃいます
すが館山市の建設計画は現出張所は旧村役場をもちて
出張所とする事に存ておりましてこの統合改築日久たそ
ございませぬ

中長（田村利男君）その六本出張所につきまゝとは時期にそくしてそれ
を活用するといふ問題もありますのでそういう事にいたした
いと存ずるのでござります

議長（石井繁君）休憩致します。午後四時十分
再開致します。午後四時五十分

三十六番（島田繁君）本案につきまゝしてよろしく御意見も
ございましたが先に市長の言明によりますとこの旧六ヶ村の
出張所も近き将来において行ふとある事でござりまするが
その以前において地元民の意志を尊重するところの様なお

話しがありまして、若しこれが一致しなかつた時、市長は、一歩
どちらを優先的に取るか腹を割って御説明願いたいと思ひ
ます。

市長（田村利男君）市長としましてはあくまで地元民の十分な
納得のつた上で出来れば早々やりたいと考えますが、あくま
で反対^{はつきり}なまゝでは出来ないといふ事を覚悟しております
三十六番（嶋田繁男君）これにはいろいろ事情もございますが、今の
市長の言明を特と謀りまして、誠結構な御腹案
と思ひます。

三十七番（伊勢仙八助君）そうすると館山地区と那古地区の住民
の意志は輕視するところ、うに聞えますが、その見解について
御説明願います。

市長（田村利男君）館山地区、民那古地区、民の住民であくまで尊
重致しましてあるのは、略式で失礼かも知れませんが、市会議

員の方の懇談会を開きました。結果をうかがひにしたり
でございまして決して意志を無視しをわけをありません
市のほうへ、整齊上におきましても改めてよくする方向
に、まずいも進めたいと思つたので、決議願ひたいと思つて
十四番（飯田義男君）も今市長さんのお話で本議案成けを
考へて、たゞ今は非常に簡單な問題だ地元諒解さん
あれば簡單な問題だと考へたのでございまして、さうく
研究致しましたですが、決論的に私は今まで反対下
ごうをいたしました。しかしながら、今嶋田議員の質問に対して
市長さんは地元民の納得が得られなければ出来ないと
云う事ですが、一切今までの事を、今ないものにして本案に對
するのや旧六ヶ村の統合改竄について一切考へておら
ないとかうなうは私は賛成致します。

市長（田村利男君）市長として、私は、おしよりました議案は

その通りでござりますので、さう御諒承願いたします。

議長（石井深志）お諮りいたします。論議も大体盡きたと存

じます。又當時に市長の腹も良く皆議員各位は

御諒承になつたものと考えらるゝでござります。よつて本案

は御異議がなければ決定致したと思ひます。が御異議

ござりませんか。

三十七番（伊勢仙之助君）反対賛成の論議も盡され入り切れ

おると思ひます。から採決により決定していただきたいと思ひま

す。十九番（石井半次君）又今の議案は那古と館山の出張所の向

題 ^正けで端的に、余りいふに過ぎた傾向に更に親切に

市長の答弁に波紋を画したと思ひます。本議案外と思ひ

ます。從ひまして ^{本議案} 対してのけの投決お諮りをお

願ひたいですが、私はかようにしたいくないのです。

從ひまして一応休憩を取らるゝ願ひするものとあります。

議長（石井潔）

暫く休憩致します。午後五時〇分

再開致します。

午後五時三十分

市長（田村利男君）二十号、二十一号議案にしましは只今まで
いろいろ誤解の面もあつたようですから改めて市長として
館山郡古館形両出張所を廃止する意志は議案を通
りかびびります。そして右残りまゝした出張所に残ります。
こは地元氏の誤解をよでし、かも納得出来ますれば
急速に行いたいし、かゝり納得出来なければ尚今後努
力を続けまゝして果の並直に指示されまゝしたような方針
にもつてゆきたいと思ひます。即議案を願ひたいと思ひます。

議長（石井潔君）申上げます。

先程二十七番議員がう採決の意見が出ております
が、議会議規則によりますと採決の一言がござりますと採決
せざるを得ないのであります。これは二十七番議員と議長に

館山市議會

おきまして懇談致したしまして取消致した様は次第でござりますから採決の御意見は白紙にかゝつたわけをござりますからさよう御諒承願います。

尚お諮り致します。

本案は先程甲上げました通り審議も十分盡されたと考えますので御意見がなければ決定致したと存じます。御意見がございませんか。

異議なしの語

議長（石井潔君）御異議は、おありと認めますよ。て本案を二上号議案は決定致しました。

統一日程第七議案を二上号を上程致します。

書記朗読

議案第三十二号 千葉県、市競輪組合規則の改正について

統務課長（元々貴君）議案第百二十二号に付しましては幹
事市でござりまするか、運輸部 船舶から議案の趣意
方を依頼されたのでござります。本案は競輪組合の
規約の一部改正をござります。六条の一項中議員の任期
に付いての任期の規定でござります。

古巻（教生田七郎君）一年を二年にした理由を御説明願
いますと思ひます。

統務課長（元々貴君）この内容に付しましては競輪
委員の石井議員から御説明願ひなかがよろしいと
思ひます。

十九番（石井平次君）本案に付しましては当時出席されま
した事長から御説明願ひた方がよろしいと思ひます。か
一応指名がありましてしたので申上げます。競輪組合
の運営に付しましては現在の過激におかましましては

四日棚 六日棚等便に千葉競輪がこのような現況下
ありましたものを交互の四日、六日でありましたものを
法令の改正に努力した結果千葉競輪は四月五除は
其他後は全部六日棚になったような状態でございます
次に任期に関するものは管理者が二年で議員の
任期が一年とある事はすべての監督におきまして
不都合があるという事とその意見がありました
のをそこでどのように改正するものでございませう、よろ
しくお願ひします。

市長（田村判男君）石井議員が発言した通りであり
まして例えは管理者が言葉は一寸悪いですが鬼
の事をした時一年で止めてしまいますと後の二年をち
よつと出く来た当座大変不都合がある、あつても
存りない、こういう事がむしろ結構の管理者の方の

発表でございまして、自分は悪い事をする意志はないけれども悪い事をした様に思われるかも知れない。この時期は一精の方が良いと云う事を競輪組合の管理者の秘書の発表に従いまして、発表した次でございします。

議長（石井潔君）本案に対して御意見ございませんか。
異議なしの聲

議長（石井潔君）御異議ありと認めます。よって本案は原案通り決定致しました。

議長（石井潔君）暫く休会いたします。午後五時三十分再開致します。午後五時十分

十八番（小沢太助君）日程が八議案が三三号は相当内容があるかように思われますので明日に廻して日程を九を審議していただくと思えます。

それからの時間を延長していただきたいと思ひます。

議長（石井潔君）只今十八番議員より日程変更の動議が出てございますが日程第八の内容は相手検討を加えられなくちやないんよ。これは残して日程第九議案を三十五号、三十六号を上程するよう。こういふ動議をどうしますか。御意見。三十三号せんか。

異議なしの声。

議長（石井潔君）それでは御意見ないと認めましてよろ決定致します。

それでは日程第九議案を三十五号同様に三十六号一括上程致します。

書記朗読

議案第三十五号 館山市立館山高校授業料、入学

料、入学金料、生収条例中改正について。

議案ヲ千五号 幼稚園保育料を規程中改正について
議長（石井潔君）議長より申し上げます 定刻六時より五分
足らずでございますのでこの二案の終りますので時間を延長した
いたと思ひますが御異議ございませんか

異 議 旨いの声

議長（石井潔君）それでは御異議ないと思ひまして時間延長
致します

教育委員会庶務課長（鶴沢貫寛君）議案ヲ千五号に
ついて御説明申し上げます

館山高等学校は三十三年度に教育施設組合におきまして
夜学を十教室の増築を終りまして尚産業教育の
設備その他も果立直に得られますので授業料を値上
げたいと思ひのてございます

尚果立高等学校におきましては現在百円定時間

五十円の値上げを又今審議中でございますので申添えます
氷に千六百歳案につきます一匹は那古富崎幼稚園等
は一年に上る前の児童が殆んど義務教育的に幼稚
園に收容されておりまして少数ではありますから家
庭の事情でとりしても土地において保育料が殆んど
納められないと云う人が出て参りますのでそういうものを救
済する意味に減免規定を設けたらと思つたのでござ
います。

尚減免規定を設けるにつきましては昨年保育料の逆
査の結果監査委員から意見書が来ておるもの
でございます。

三番福岡保徳君 館山高校の授業料の値上げについて大体百
一万位の金か余計になるわけですがそれは館山高校で
必要になって来て上げるものと思ひますがその還元方法につ

して御説明願います。

それから本年度ノ学級増になりまして人員も機材なども
他校と同じ位になりまして特来県立移管の考えがあります
かどうかお伺いします。

教育委員会庶務課長（鶴沢寛寛君）今度値上げによりま
して増収される分は、一学級増加分を除きまして大体八十万
でござります。一学級増加分の増収が四十万円合計大体百
二十万程度でござりますが、高等学校の今年度の高等学校
校費が昨年度と比較しまして百四十万ほど増加になってお
りますので大半は還元されるかと考えて差支えなうと思ひます。

尚県立移管の内題につきます。委員会は、委員会の申しまし
では、はつきりした線は出ておりません。この県立移管の場
合は、相当元で負担をしなければならぬ現況にあると考
え、ますので現在の現況ではまだ困難ではなうかと考えております。

議長（石井梨君）他に御復疑ひございませんか。

異議なしの声。

議長（石井梨君）それでは御異議なしと認めます。ようて議案第三十五号ヲ平六号は可決確定致しすした。

それでは今日の会議はこれをもつて散会と致します。
どうも長時間御審議ありがとうございました。

時に午後五時四十九分。

